

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス事業 そら篠路館		
○保護者評価実施期間	2026年 2月20日		2026年 3月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11名	(回答者数) 10枚
○従業者評価実施期間	2026年 2月20日		2026年 3月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3枚
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・創作活動は季節のものを取り入れ、創作品はアート展へも出展している。	・お子様が1年を通して季節や行事を感じられるメニューを提供している。 ・個人だけの作成ではなく、お子様全員で作成する集団作成物をアート展へ出展している。	・今後は「こども会議」の中で、お子様がやりたい題材等を選定していき、アート展等への出展を通して「自分ができること」を推奨してやりがいや喜びを醸成していく。
2	・余裕のあるスペースがあり、お子様達が広々と遊べる。	・のびのびと体を動かせるホール活動を取り入れ、お子様達の健康増進を図っている。	・ホール活動を通して、集団療育の場を提供していく。
3	・お子様やご家族が参加することができる事業所主催の行事(そら篠路まつり、クリスマス会など)を開催している。	・お子様達も企画や創作物作成に関わることができ、普段関わりのない人との交流も図ることができている。 ・来客や地域住民の前で発表する機会を設けている。	・お子様が主役となる「こども会議」を定期的を実施し、子供達の意見を取り入れる機会を積極的に推進していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・児童見守りをする点で死角となる場所が多く、安全面に不安がある。	・現在の児童活動場所は用途を転用したため、一部見守りする上で死角となる場所が存在している。	・今後は死角となる場所への人員配置や家具等の設置場所等を工夫し、リスクを少なくする努力をする。
2	・事業所自体の内部研修に参加する機会はあるが、児童に特化した研修の機会が少ない。	・児童に関する経験期間が短い職員が多く、他事業所との交流も少ない。	・基本的な研修のみならず、日々の支援の充実のための研修や外部研修の働きかけを行い、個々のスキルアップを目指せる体制を整えていく。
3	・創作活動は定期的に行えているが、来館されるお子様全員で参加できる集団療育プログラムが少ない。	・障害の程度、年齢、下校時間の相違等を考慮すると、全員で決まった時間に行える集団療育の立案が難しい。	・今後は数人単位での小グループによる集団療育も行う。 ・集団療育プログラムを確立し、左記の相違があっても行えるメニューを考えていく。